

第25章 大井宿遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は、国道254号線川越街道沿いの旧大井の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高21～22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、2000年4月24日付けて大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間(1624～1643)に整備された日本橋から川越に至る11里(約44km)の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅(上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井)の1つが大井宿である。

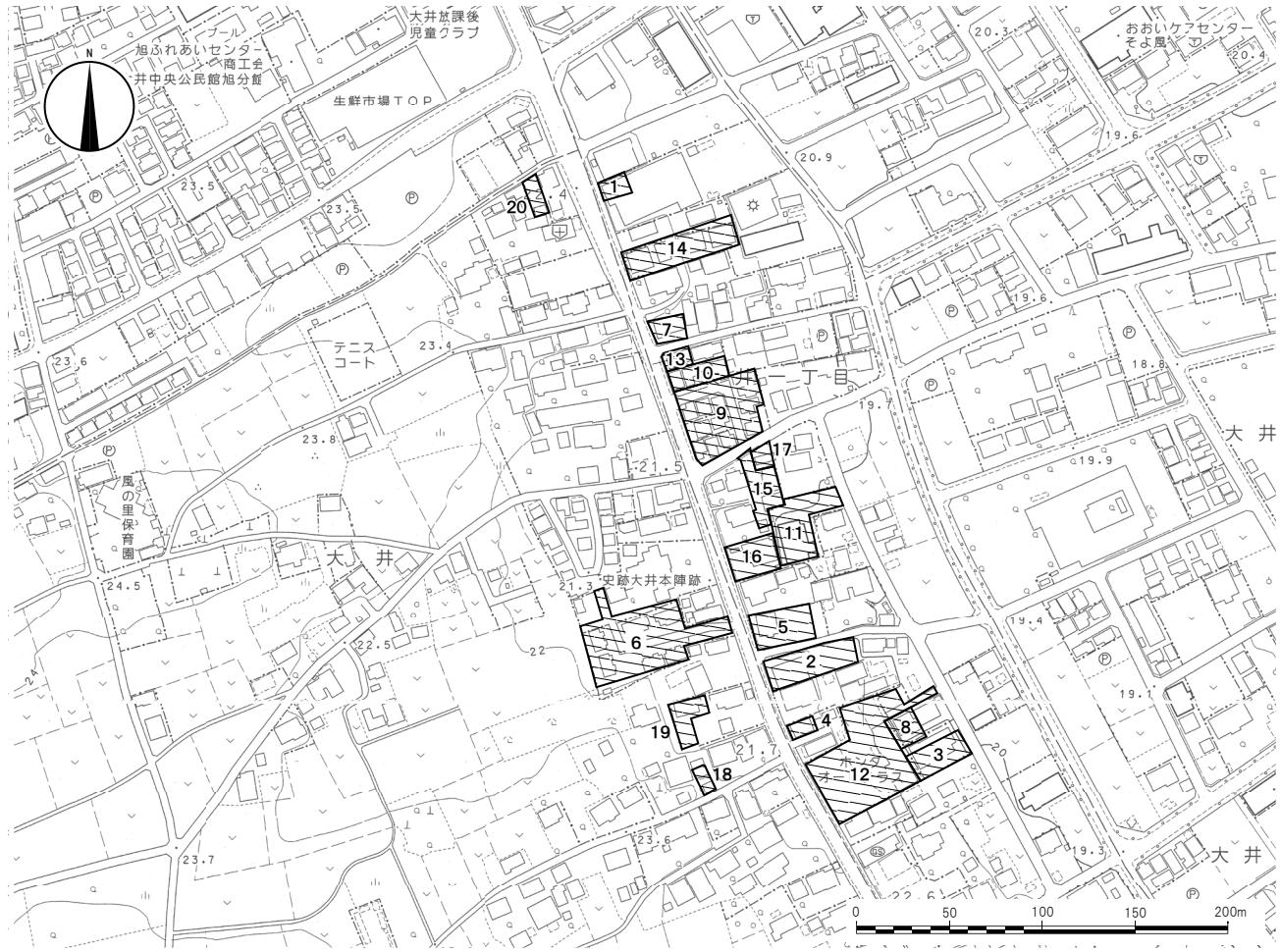
大井宿遺跡では2020年4月現在、20地点で調査が行われ、中世～近代の遺構・遺物が検出されている。

II 大井宿遺跡第19地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2019年1月7日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2019年1月23日に試掘調査を実施した。

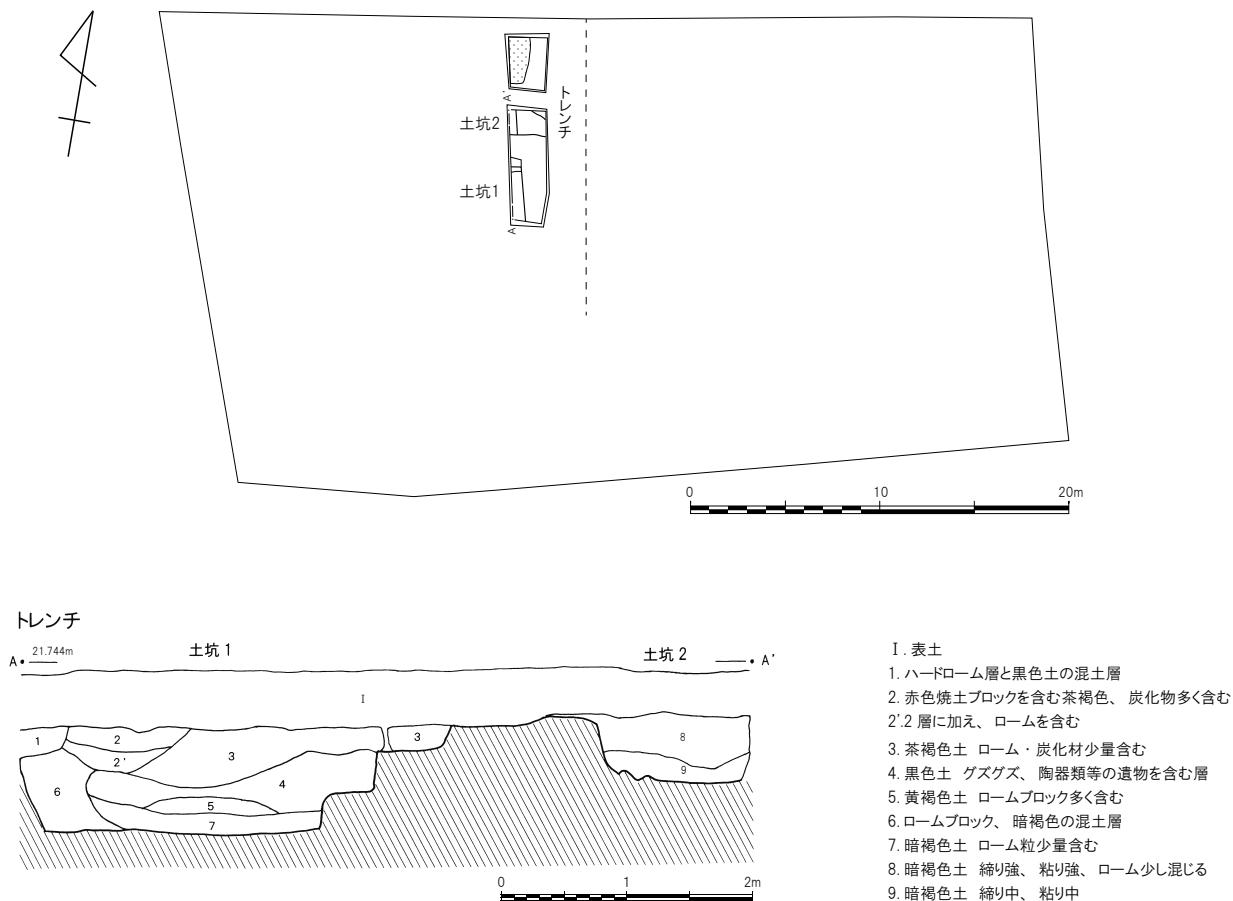
試掘調査は幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。



第144図 大井宿遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

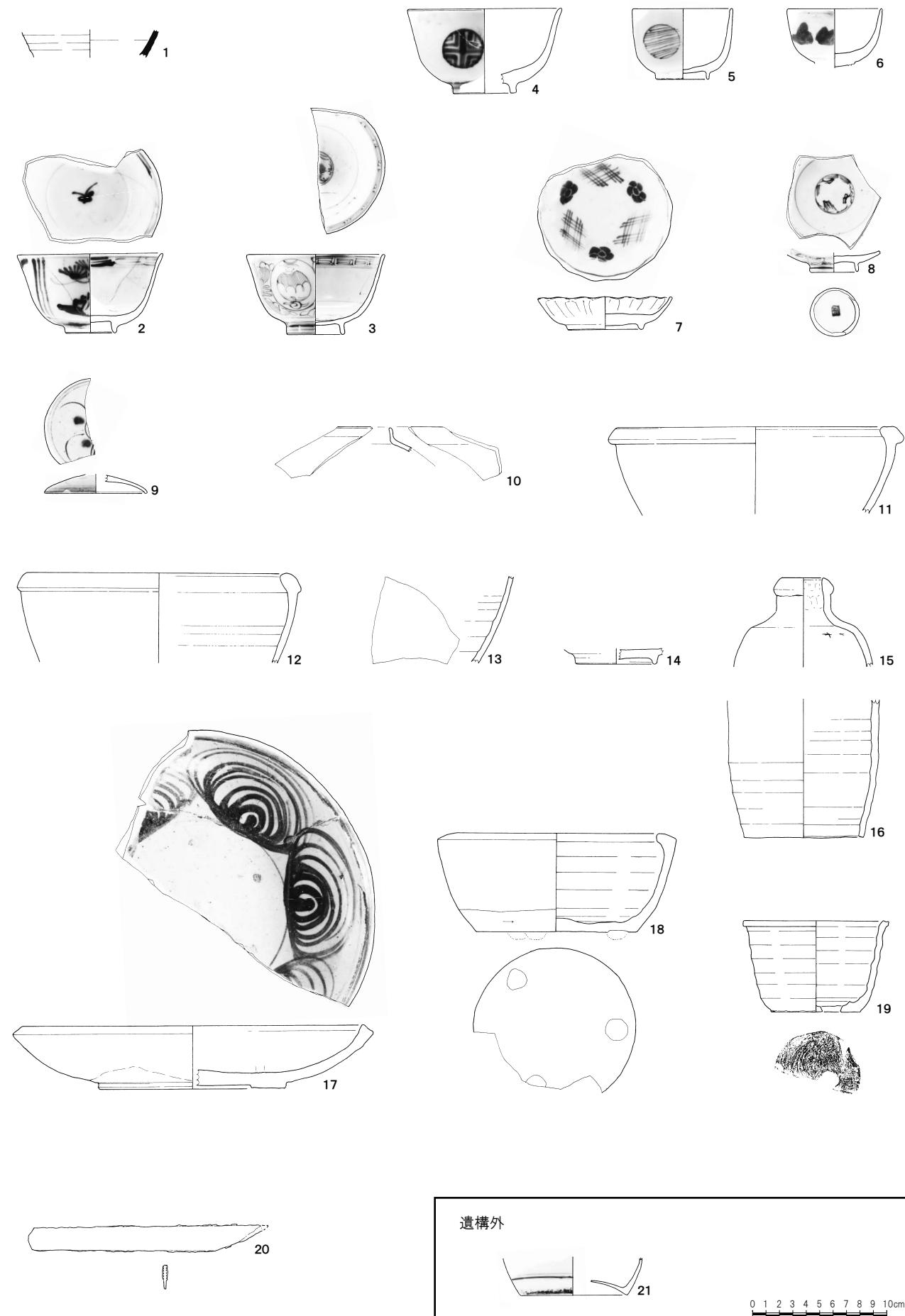
第70表 大井宿遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井 1-2-22・23	(1999.8.9)	110	(110)	店舗	焼土、錢貨		町内IX
2	大井 1-6-1	(2000.3.14～28)	786	(222)	店舗	土坑、ピット、溝、陶磁器		町内IX
3	大井 1-6-8	(2000.7.7～13)	605	(150)	高齢者介護施設	溝、縄文土器		町内X
4	大井 1-6-25	(2000.8.28～30)	122	(20)	個人住宅	土坑、溝、陶磁器		町内X
5	大井 1-5-9	(2000.10.18～28)	781	(288)	駐車場	焼土、遺物なし		町内X
6	大井 1052-1・2、1071	(2000.11.28～12.15)	2,300	(324)	共同住宅	土坑、溝、陶磁器		町内X
7	大井 1-2-16	(2002.4.15・16)	257		事務所	土坑、溝、磁器		町内XII
8	大井 1-6-7	(2004.4.20)	282		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
9	大井 1-3-14・15	(2003.2.26～4.3) 2004.7.30～9.3	1,617		宅地造成	集石、土坑、ピット、溝、穴藏、井戸、礎石、陶磁器等		大調21、町内XII
10	大井 1-3-16	(2004.9.21～10.6)	341		分譲住宅	土坑、ピット、遺物なし		町内XII
11	大井 1-5-5・11	(2004.12.10～20) 2005.1.6～29	970		共同住宅	土蔵跡、土坑、ピット、大溝、溝、井戸、穴藏、陶磁器等		大調21、町内XII
12	大井 1-6-22	(2006.6.13～16)	2,664	(110)	店舗兼事務所	ピット、溝、井戸、陶器等		市内3
13	大井 1-3-32	(2006.8.21) 2006.8.22～30	151	(60)	個人住宅	土坑、ピット、陶磁器等		市内3
14	大井 1-2-19・20	(2007.3.27～29)	944	(112)	コンテナ	近世建物跡1、土坑、ピット、井戸、磁器等		市内3
15	大井 1-5-3	(2007.8.1～10)	429	(65)	個人住宅	土坑、ピット、大溝、陶磁器		市内4
16	大井 1-5-11	(2010.3.15～18) 2010.3.19～4.30	500.3	(218) 150	共同住宅	土坑、ピット、溝、礎石、陶磁器等		市内8
17	大井 1-5-16	(2013.5.14)	110.01	(15.9)	個人住宅	土坑、陶磁器		市内18
18	大井 1067-1 の一部	(2017.11.9)	556	(39.75)	個人住宅	ピット、陶磁器		市内24
19	大井字西原 1069-3	(2019.1.23)	428	(18)	個人住宅	土坑、陶磁器		市内25
20	大井字西原 1081-8・9	(2019.10.24)	170.32	(13.84)	個人住宅	遺構なし、陶磁器		市内25



第145図 大井宿遺跡第19地点遺構配置図 (1/400)、土層 (1/60)

土坑



第146図 大井宿遺跡第19地点出土遺物 (1/4)

現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ~ 80 cm である。

調査の結果、土坑 2 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 土坑

【土坑 1】 土坑 1 はトレーナーの中央部で検出した。北側は搅乱が大きく入っているため立ち上がりが確認できず、全体の形状や規模は不明である。確認された範囲での土坑の深さは 50 cm を測る。

【土坑 2】 土坑 1 の南側で確認した。調査区外に延伸するため全体の様相は把握できないが、深さ 90 cm を測り、北側の立ち上がりは階段状を呈する。覆土の一部に焼土や炭化物が混入している。

② 出土遺物

遺物の大半は土坑より出土したものである。ほとんどが 17 ~ 19 世紀代のもので、一部に煤の付着や火を受けた痕跡が認められる。詳細については第 146 図及び第 71 表に掲載した。

第 71 表 大井宿遺跡第 19 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 146 図 -1	土坑	須恵質土器	—	—	—	轆轤成形、器形不明	近世か
第 146 図 -2		瀬戸美濃系磁器碗	10.8	3.8	5.9	轆轤成形、端反、外面は帆掛舟、見込昆虫文	1820 年代～
第 146 図 -3		肥前系磁器碗	10.3	4.2	6.0	轆轤成形、弱い端反、線描、外面は花文、見込松竹梅円文	1820 年代～
第 146 図 -4		瀬戸美濃系磁器碗	11.4	4.6	6.3	轆轤成形、弱い端反、外面は丸絵	1820 年代～
第 146 図 -5		肥前系湯呑茶碗	7.5	4.0	5.3	轆轤成形、丸腰の筒型、外面は丸絵	1820 年代～
第 146 図 -6		肥前系湯呑茶碗	7.0	—	(4.3)	轆轤成形、外面線描は富士見の西行をダミ塗	1820 年代～
第 146 図 -7		肥前系磁器皿	10.0	2.4	5.6	轆轤成形後型押、見込は井桁文・梅花文	1820 年代～
第 146 図 -8		肥前系磁器皿	—	3.5	(1.6)	轆轤成形、線描、「男山」、見込は松竹梅円文	1820 年代～
第 146 図 -9		相馬系土瓶蓋	7.6	—	(1.5)	轆轤成形、山蓋、白泥化粧掛、鉄・緑釉絵	19 世紀～
第 146 図 -10		緑釉土瓶	—	—	—	轆轤成形、内面に鉄漿付着	18 世紀末～
第 146 図 -11		瀬戸美濃系灰釉片口鉢	21.0	—	(6.5)	轆轤成形、緑釉の流掛	19 世紀後半～
第 146 図 -12		瀬戸美濃系鉄釉片口鉢	21.2	—	(6.8)	轆轤成形、飴釉	19 世紀後半～
第 146 図 -13		鉄釉瓶力	—	—	—	轆轤成形、焼成不良または被熱により釉面は荒れ鈍い緑に発色	不明
第 146 図 -14		瀬戸美濃系灰釉皿	—	6.0	(1.2)	轆轤成形、全面施釉	18 世紀後半～
第 146 図 -15		瀬戸美濃系灰釉徳利	3.0	2.19	(6.8)	轆轤成形、口縁部折返、二合半、16 と同一個体か	19 世紀前半～
第 146 図 -16		瀬戸美濃系灰釉徳利	—	—	(10.3)	轆轤成形、内面から下端部の水平な割口にかけて鉄漿付着	19 世紀前半～
第 146 図 -17		瀬戸美緒系馬の目皿	27.0	13.7	4.7	轆轤成形、蛇の目高台、長石釉、底部付近は無釉	19 世紀前半～
第 146 図 -18		土製火鉢	17.8	12.0	7.4	轆轤成形、脚は欠損、	19 世紀前半～
第 146 図 -19		土製植木鉢	10.8	6.4	6.8	轆轤成形、底部糸切り離し後穿孔	19 世紀前半～
第 146 図 -20		小刀	(16.4)	1.8 ~ 2.0	0.2	片刃	不明
第 146 図 -21	遺構外	瀬戸美濃系磁器急須	—	8.0	2.7	轆轤成形、腰から底部は露胎で煤付着	19 世紀後半～



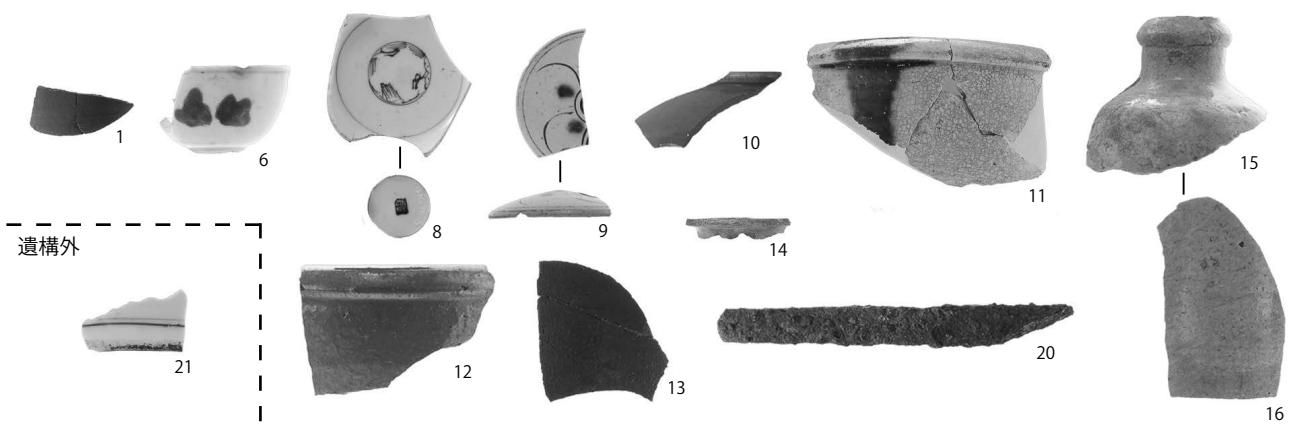
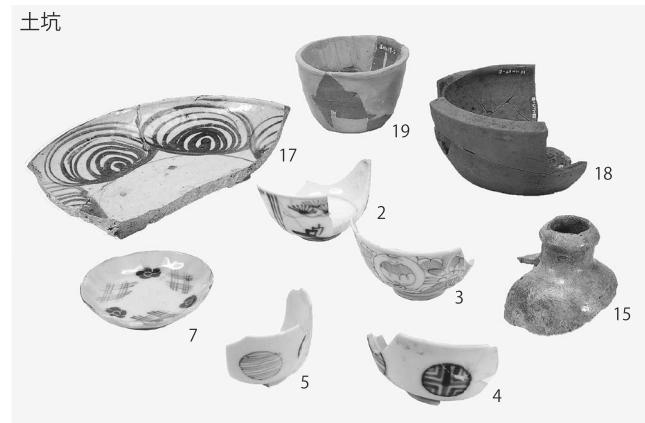
大井宿遺跡第 19 地点トレンチ



大井宿遺跡第 19 地点土坑



大井宿遺跡第 19 地点調査風景



大井宿遺跡第 19 地点出土遺物